

カルデラ縁辺などのリトリック正断層が再動した岩手・宮城内陸地震 (M6.9) の  
地表地震逆断層  
Surface ruptures of the Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake: Reverse fault reactivation of  
caldera-collapse normal faults

遅沢 壮一<sup>1\*</sup>, 布原啓史<sup>2</sup>

Soichi Osozawa<sup>1\*</sup>, Keiji Nunohara<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 東北大学理学研究科地学専攻, <sup>2</sup> テクノ長谷

<sup>1</sup>Department of Earth Sciences, Graduate School of Science, Tohoku University, <sup>2</sup>Tecno Hase, Co. Ltd.

地質学会仙台大会のプレ巡検で案内します。ぜひ、ご参加下さい。

2008年6月14日に起こった岩手・宮城内陸地震では、崩壊も顕著であったが、地表地震断層が現れた。そしてこれら断層についての数多くの調査報告書が作成された。しかし、層序・構造の詳細や、それらと断層との関連について、記述した報告は少ない。一関市本寺の本見学コースでは、地表地震断層は改修により、痕跡も見られないが、自然露頭を中心に、花崗岩と、カルデラ充填の陸成堆積物や海成層を区分したうえで、これらが断層関係にあることを観察する。地表地震断層は露頭に見られるこれら断層のごく近傍に、再動によって生じたことを、既に消失しているが、地表地震断層の位置を解説したうえで、観察する。荒砥沢ダムでは、地表地震断層はカルデラ縁正断層そのものに生じているが、既に観察不能であるため、見学しない。

キーワード: 岩手・宮城内陸地震, 地表地震断層, リトリック正断層, 地殻伸長伸張, カルデラ崩壊正断層, 再動

Keywords: The 2008 M 6.9 Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake, earthquake surface rupture, reverse fault, istic normal fault, crustal extension, caldera-collapse normal fault, reactivation